

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



過ちを改めざること

先日、小長井町の健全育成協議会総会に出席しました。その会の中で、派出所の警察官の方々による講演がありました。また、諫早市の校長会でも諫早警察署生活安全課の講演を聞く機会がありました。

どちらの講演も「SNS 詐欺」や「闇バイト」についての内容でした。昨今のネット環境の発展でこの手の犯罪に若者が被害者・加害者となるケースが増えてきているというものでした。特に「闇バイト」については、犯罪に手を染めることになるのだという意識を十分もっておかないといけないと感じました。

「1 回くらいなら」「そう思ってた」「指示されたことをしただけ」「自分は悪くない」「自分も被害者だ」「こんなことになるとは思ってなかった」等々。

いくら言い訳しても犯罪に加担したことには変わりなく、決して許してはもらえないこともよくわかりました。

それでも、このようなことを言い続ける人をニュースで見ることがあります。そんな人にも子どもの時があったはず。おそらく、子どもの時から言い訳ばかりをし、それを正す機会を失ってきたのではないかと、哀れにも感じます。

子どもたちは成長の途中です。時には間違えます。だからよくないことは教え、諭し、正し、改める必要が出てきます。

「ちょっと遅れても」「少しくらいしゃべってもいいよね」「〇〇ちゃんをちょっと困らせるくらいなら」「自分だけじゃなかさ」「わざとじゃない」「〇〇が悪い」…。

言い訳、言い逃れ、責任転嫁。すべて大人の世界では通じない、または受け入れられにくいことではないでしょうか。子どもの延長線上に大人がいるということをふまえると子どもの時から機を逃さない大人の介入は必要だと思います。

「過ちを改めざること、これを過ちという」という格言があります。間違ったことをそのままにしていることこそが一番の間違いであるという意味です。